

伊佐市リモート研修資料 2020.10.28

1.2 歳児の発達と実践の課題

－ つもりを読み取り気持ちを切り替える 「間」を保障する －

宮里六郎 (元熊本学園大学)

配布資料

- 1 : 1.2 歳児の発達と実践の課題 (本資料) 《当日使用》
 - 1 ページ～ 表紙 (配布資料一覧等)
 - 2 ページ～ ① 1.2 歳児の発達と実践の課題
 - 6 ページ～ ② 新米園長 子育てワンポイントアドバイス
- 2 : 実績記録 《事前に読んでおいてください》
 - 1 ページ～ 表紙 (分析メモの書き方)
 - 2 ページ～ ① 実践記録「人間関係を広げて成長していったあいちゃん」
 - 6 ページ～ ② 実践記録「みてみてコールから大発見」
 - 11 ページ～ 実取智子 場面記録「これがいいとー 三輪車の取り合い」
- 3 : 分析メモ (実践記録 2 件分) 《事前に行ってください》
- 4 : 今日学んだこと 5 行 (1 枚の半分)

○ オンライン中継の入口 (インターネット URL) は、次の通りです。

伊佐市保育士等研修会 生配信 URL (前回と変わりません)

<https://www.city.isa.kagoshima.jp/blog/info-health/info-kosodate/26902/>

【参考】 令和 2 年度 伊佐市保育士等研修 スケジュール

研修テーマ	「子どもの発達を学び子どもの気持ちに寄り添う」	
日時・内容 (予定)	日時	内容
※感染状況により、変更になる場合があります。	第1回 9月16日(水) 18:30～20:30	3歳児の発達と実践の課題 ～ 一人前意識の3歳児、受けとめながら子ども同士の関係につなぐ
	第2回 10月14日(水) 18:30～20:30	4.5歳児の発達と実践の課題 ～ 関係に生きる4.5歳児、子ども同士の関係に働きかける保育を
	第3回 10月28日(水) 18:30～20:30	1.2歳児の発達と実践の課題 ～ 自我と表象が成立するする1.2歳児、気持ちを切り替える「間」を保障する
	第4回 11月11日(水) 18:30～20:30	ゼロ歳児の発達と実践の課題 ～ 有能で能動的なゼロ歳児、子どもが感じる「間」を保障する
	第5回 11月25日(水) 18:30～20:30	異年齢保育の動向と到達点 ～ 多様な人間関係から暮らしの保育へ

① 1. 2歳児の発達と保育実践

一つもりを読み取り気持ちを切り替える「間」を保障する

宮里六郎（元熊本学園大学）

1 発達（1）－自我の芽生えと他者認識の成立

・ 自我の芽生え

①自分の名前がわかる ②自分の顔がわかる ③自分のモノがわかる（所有意識）
モノで自己主張－自分の気持ちをことばで言い表せないこの時期、モノは幼児の
ことばに代わる自己顕示の一つ

「矛盾配分」→「あつかましい2歳児」

自分を最大にする自我があって初めて、他者をも尊重する心が育つ

自己主張しない子どもが問題→手持ちおもちゃの実践

・ はじめて自分に気づいた喜び

自己主張は、自分なりの意図を持った主体的な人間への一里塚

・ 自我の芽生えと他者認識の成立と一体 人間は社会的存在

☆鏡の自分の顔はわかるのはなぜ？ 見えない顔の部位がわかるのはなぜ？

☆自分の名前・自分のモノがわかるとき友達の名前・友達のモノもわかる

・ 友達を「主体」として認識し、関心があるから「奪い合いからケンカへ」

2 発達（2）－表象の成立に伴う内面的世界の成立

表象とは、目の前にないものを頭の中に思い浮かべる力

表象が成立すると、

① 「つもり」の世界の成立

要求が内面化し持続的になり、行動が目的意識的になる

「バナナジャナキャイヤ」（だましがきかなくなる） 新聞とり、配り活動

② 思い当たる喜びと対の世界の成立

☆「オンナジ」「マタアッタ」「イッパイアッタ」 思い当たる喜び

☆行為表象としてまねっこ 模倣の成立

☆「オオキイ」「オオキクナイ」「チイサイ」 「大一小」「友達－自分」

関係づける力と「対」「比較」の世界の成立（思考の原点）

第三者にはわかりにくい子どもの「つもり」（表象）の世界

★すべり台からモノを投げる2歳児、何もしていない友だちをなぐる2歳児

自分のつもりを読みとってもらった喜び、それが子どもの安心感と大人への
信頼感につながる 今井実践

※子どもの行動には必ず理由がある、それがわかりたいという気持ち

☆「つもり」を理解してもらうことで、大人に愛されているという安心感

3 実践課題（1）－自己主張と気持ちの切り替え

- (1) 2歳代は、自己主張と同時に「気持ちの切り替えと立て直し」の力も成立
 <型はめブロック> 自己主張する自分と受け入れない大人の関係
 うまく入らないと投げたりするが、偶然入った経験から、気持ちを切り替えて再挑戦
 ☆気持ちを切り替えるためには、「マテヨ」という立ち止まって辺りを見回す精神的と何回も挑戦してみる時間的余裕つまり「間」が必要
 ☆自己主張をつぶすのでなく、「気持ちを切り替えたり立て直したりする力」を膨らませる事
 ☆子どもは簡単には気持ちを切り替え立て直したりできない。
 即刻の切り替えを求めると自己主張がこじれてだだこねになる。
 強引に管理すると、大人に見捨てられる恐怖心から、大人の顔色を伺う
- (2) 気持ちを切り替える力をふくらませるために
- ①気持ちを切り替えるためには、「わかった」と受けとめる保育：「間」の保育
 子どもはいったん受けとめられることで、安心して周囲に目を向ける
 - 2歳児にはとにかく「わかった：」「いいよ」といったん受けとめること。
 - ②命令より選択を
 選択の保障が自尊感情の土台「選んだことで自分の主張が認められた」
 大きな流れは大人がつくり、局面での小さな選択を保障しながら自己決定の力
 - ③気持ちを切り替えるためには、ことばだけでなく視覚的な「みとおし」が必要
 例 よし君の散歩
 - ④気持ちの切り替えには、見通しだけでなく達成感を持たせること
 ・「次にこうなさい」よりそれまでしていたことを、子どもの気持ちに即して確認する 「達成感」や「充実感」 「行って帰る活動」
 ・過去を振り返り、現在に区切りを入れ、未来に期待感を持って活動する
 - ⑤気持ちを切り替えるためには、身体（行為・行動）で切り替える
 ☆儀式 保育所の送り迎えの儀式-気持ちの切り替え、並んだ子ども達
 - ⑥気持ちは一人では切り替えられない、支える仲間が必要。
 例 「いっしょに考えいっしょに行動して」

4 実践課題（2）-モノの取り合い

- (1) 独り占めの心理
 「自分の気持ちをことばで言い表せないこの時期、モノは幼児のことばに代わる自己顕示の一つ」 ☆ 使わなくてもブロックを両脇に抱えている子どもの気持ち
- (2) 奪い取る心理
 「友達が持っているモノが欲しいだけでなく友だちそのものがほしい」
 ☆ ただ置いてあるだけでは欲しがらないが、友達が使っていると欲しくなる子
- (3) どうすれば貸してあげられるか？
 自分の要求が満たされ、少しだけ貸しても自分の領域が壊されないことがわかったとき 十分な数のおもちゃの保障
- (4) 貸してもらうのを待てるには？ 「交代」「順番」がわかるには？
 「貸して」ということばをだけでなく、貸してもらった経験の保障

- ①貸してくれそうな子に言わせる②一緒に行って貸してもらう
- 「順番」が待てるためには、「視覚のみとおし」が必要 三輪車の場合
- (5) 貸してもらえなかった時にどうするか？
 - ①長引かせていないか？ 関心を他に向け早めにトラブルを切り上げることも必要
 - ②いっしょに探すことで気持ちを切り替える「間」を保障する★伊藤明日香実践
他者認識の変換ー「自分のモノとる奴」から「いっしょに遊ぶ仲間」に
 - ③順番・交代だけでなく「いっしょ」の方向を探る ★2歳児三輪車の取り合い
 - ④奪った後返してあげる力を育てる★伊藤洋子実践

5 実践課題（3）－2歳児保育の課題

(1) 依存しつつ自立する2歳児

「ミテテ」の意味 2歳児後半

- ①「遠くに行かないでそことで見守っていて」（依存）
- ②「大人は手を出さないで自分でやらせて」（自立）
- ③やがて3歳の「ヤッテアゲル」（一人前意識）の世界へ

(2) ことばの発達

1歳で初語、1歳半で爆発的にことばを獲得（モノには名前がある）
 ことば獲得期の対応 ①行為にことばを添えて②一語くれたら二語かえす
 行動調整 禁止より方向転換を
 かみつきとことばの発達 噛まないようにするよりことばでやりとりする力を

(3) 2歳児保育の三つの柱

①身辺自立・しつけ

食事「マナーより食欲を育てる保育」「食べる意欲は生きる意欲の原点」
 排泄の自立は、一人前意識の土台 3歳でオムツをしている子
 衣服の着脱 半分手伝って半分自分で 指示待ちの子

②ぶつかり合いから共感の世界をつくる

③ぶつかり合いだけでなく友達とあそぶ楽しさを

保育者が遊んであげることであそぶ楽しさを

「いっしょの活動」の意味 いっしょにいることで気持ちも同じくなる
 みたてつもりあそびからごっこあそびへ 「みたて・つもりの共有」

(4) 「見て学ぶ」「見よう見まねで学ぶ」2歳児 異年齢での子どもの姿 模倣の時代

<事例> 2歳クラス「シッコながさはったー！」

AちゃんのシッコをB君が流したと大泣き。

保「まだ、トイレットペーパーが残っているから大丈夫。全部流れてへん。半分だけや。」

A「あかんー！！」

保「Aちゃんの前はB君がしっこしてはったんやで。あれは、AちゃんとB君のおしっこやし半分こでいいやん。」

A「あかん！！」

保「Bちゃんだって流したいやん。BちゃんだってAちゃんと同じ気持ちやで。Bちゃんは流さんでいいの？」

A「うん。いいんやー」

保「いくら泣いてもオシッコはかえってこーへん。悲しいときはかわいいお洋服着よう。楽しくなるよ。」

引き出しからお気に入りのシャツとパンツを一緒に探してあげると、Aちゃんは泣きながら「ふふふ・・・。」と泣き笑いをしていました。

★自我が芽生え自己主張もモノへのこだわりも激しくなる2歳児ですが、自分がしたオシッコにまでこだわるのか、オシッコ流されただけでそんなに怒るのか、Aちゃんはスゴイ！また半分にかこつけて大まじめで説得している保育者、そこまで対等に渡り合うのかと感心します。2歳児は視点を変えて相手の立場に立つのははっきり言って無理です。でもでも、タイミングよく「悲しいときはかわいいお洋服着よう。楽しくなるよ。」は気持ちを切り替えさせるための見事な一言。泣き笑いしているAちゃん、想像しただけでほのぼのと笑ってしまいます。やっぱり子どもって面白いな、保育も楽しそうだなと、疲れがとれたような気持ちになりました。

② 新米園長 子育てワンポイントアドバイス

—子育ての極意は子どもをあきらめること<1. 2歳児>

子どもの発達には質的な転換期、発達の間隔があります。小学校3、4年生の具体的思考から抽象的思考に移る9、10歳の節、そして乳幼児期最大の「1歳半の節」です。

子どもは1歳半の節を越えると、自我と表象が芽生えるといいます。簡単に言うと、1歳半をすぎた頃から、自分の名前や顔そして自分のモノがわかることで自分に気づきますます自我の芽生え。例えば子どもが寝ている間に口紅を塗ります。起きた後鏡を見せると、1歳半前の子どもは鏡の口紅を拭こうとしますが、1歳半を越えた子どもは自分の唇を拭くそうです。また目の前にないものを頭に思い浮かべることができるようになり、自分なりの「イメージ」や「つもり」の世界が成立します（表象の成立）。例えばバナナを食べている1歳半を越えた子どもからバナナを取り上げてリンゴでごまかそうとしても「リンゴ、リンゴ」とだましが効かなくなります。「新聞とってきて」と頼んだら新聞を取って来られるようになります。めあてを持って行動できるようになったのです。

この自我と表象が合体し、初めて自分に気づき、自分なりのつもりの世界が成立した2歳。自分のことを見て欲しくてたまらないのです。何でも自分でやりたくてたまらないのです。大人がしてあげようとする、「イヤ」「自分で」と何でも自分でやりたがります。この「イヤ」「自分で」は、「僕は僕なんだから大人の都合のいいように育てられるのはイヤ」というメッセージを含んでいるのです。子どもは大人の思い通りに育ててくれないのが当たり前と開き直ること、つまり子どもを自分の思い通りに育てることをあきらめることこそ自立へ向けた子育ての第一歩です。

さて2歳代は、自己主張と同時に「気持ちの切り替えと立て直し」の力も成立します。○△□の型はめブロックの様子を思いうかべてください。○を△に入れようとして入らないので怒って投げつけます。しかし偶然入ることもあります。その経験から△の横にある○に気づき○に入れます。そして入って喜びます。こんなことを何度も繰り返しながら形の認知ができます。この○が自己主張している子どもです。△が自己主張を受け入れない私たち大人です。この例から子どもは自分の思い通りにならなくても気持ちを切り替えて立て直したりする力が育っていると言われています。しかしそのためには周りを見回す精神的ゆとりと何回もやってみる時間が必要なのです。即刻切り替えられないのです。

子どもとの具体的関わり方を二つアドバイスします。一つ、子どもの「イヤ、自分で」に対しては、「イヤじゃないでしょ」ではなく、心になくても「いいよ、わかった」と受け入れてあげること。精神的余裕と時間が保障されるから気持ちが切り替えられやすくなるのです。二つ「命令より選択を」。「パンツはきなさい」ではなく「アンパンマンのパンツとウルトラマンのパンツとどっちはく？」と選ばせるのです。子どもは見事に「こっち」と選んでくれます。選ばされたのだけれども最後は自分で決めたことで自分が尊重されたと思うのかもしれませんが。「わかった」「どっちにする」は魔法の言葉。ぜひお試しを。

園長 宮里六郎 2011年9月28日